

平成 28 年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会 第 4 回 会 議 会 議 概 要

◇ 日 時 平成 28 年 11 月 25 日（金） 13：00～13：47

◇ 会 場 県庁 502 会議室

◇ 出席委員

委員長 高橋和

委 員 井上肇、尾形律子、佐藤亜希子、玉谷貴子、三浦新一郎、三木潤一
(欠席：岡田新一)

〈五十音順、敬称略〉

■委員の主な意見等

議事（1）新たな「山形県行財政改革推進プラン」の骨子（案）について

〈発言順〉

「柱 1 多様な主体との連携・協働による地域の力の結集について」

（尾形律子委員）

- 「県と市町村との連携・協働」が重点項目になっている。これは大変期待値の高いもの。更なる魅力ある県づくりのためには、この取組みが機能するように、明確な指針や目標値を定めた上で動いて欲しい。

（玉谷貴子委員）

- 山形県は 4 地域に分かれている。その 4 地域が連携してこそ、オール山形で他県や国外にも戦っていけないのではないか。
- 地域をしっかりと下支えすることも、山形県として必要なのではないか。さらに、情報発信をプラスすると、すごく良いのではないかと考えている。

（佐藤亜希子委員）

- 全県下で連携が一気に進めば理想的だが、現実的に考えて、まずは 4 つの地域での連携を第一歩としてうまく進めていく必要があるのではないか。
- 各総合支庁に設置した連携支援室がうまく機能し、良い結果を出せるようになることを期待しているので、頑張ってもらいたい。
- 市町村の連携に向けた理解が進むよう、成功事例など具体的なものを示して、連携の形を分かりやすく「見える化」すると良いのではないか。

（高橋和委員長）

- 市町村との連携を進めるため、具体的な事例やアイデアに加え、基本方針、指針をきちんと示して欲しい。

「柱2 情報発信力の強化と透明性の向上について」

（佐藤亜希子委員）

- 情報の見せ方や組み立て方、効果的な発信方法について、民の力を活用し、協働して進めていくという手法を考えても良いのではないか。

（玉谷貴子委員）

- 受け手の視点に立った情報発信を進めるには、受け手を誘導するような情報提供の仕方や、情報を英語などの外国語で発信するような工夫が必要。ターゲットを絞った情報発信をお願いしたい。

（高橋和委員長）

- 「県内外への積極的な情報発信」は、受け手に合わせた情報発信や効果的な情報発信、県民が必要な情報、県から外に向かって発信する情報など双方向で考えていかなければならない問題だと思う。重点項目として挙げているので、頑張ってもらいたい。
- 受け手に向けて発信した情報が受け手に届いているかどうかを検証する仕組みを考えて欲しい。

「柱3 限られた行財政資源で最大効果の発揮について」

（三浦新一郎委員）

- 限られた時間と資源の中で最高のパフォーマンスを発揮していくことが重要。それには、①組織や職員一人ひとりが行政の付加価値を上げるための数値目標を持つこと、②スピーディーに意思決定を行うこと、③柔軟性を持って対応すること、④職員の意識を高める風土づくりの4つの取組みが大事。
- 「県民のための県庁づくり」に、明確な数値目標を設定することやスピーディーな意思決定をすること、柔軟性を持った対応をすることや社会的意義を共有すること、CS（顧客満足度）の向上などのキーワードを追加することを検討して欲しい。

（井上肇委員）

- 最大効果を発揮するためのプランを明確に打ち出さないと、絵に描いた餅になる。長期ビジョンや中期ビジョン等の中で、どのように描いていくかが極めて重要。
- 楽しい夢のある行財政改革を打ち出し、全国に例を見ないようなプランを出すべきでないか。

（三木潤一委員）

- 県の仕事というのは、基礎自治体のバックアップをすることによって尽きる。広域行政を効率化することと同時に、将来の絵を描くことが重要になる。
- 「選択と集中」は確かに重要だが、効率化だけの行革ということではなく、将来に希望が持てるような新たな選択を含めて具体的に考えていく必要があるのではないか。

(高橋和委員長)

- 向かうべき指針があると目標を共有できるようになる。何を改革すべきか、何を捨てて何を選擇するかという問題は、その中で自ずと決められてくるのだろうと思う。
- 行政サービスの質を高めるには、社会的な役割を認識して士気を高めたり、ワーク・ライフ・バランスの職場環境を整えて、良い職場で一生懸命働けるような環境づくりをしていくことが大事。

(井上肇委員)

- 使命感を持ち、明確な目標を設定して取り組むことが重要。
- このプランは大変良いプランだと思う。最大の効果を発揮するということと共に、「県民のための県庁づくり」ということが明確に出ている。県民の期待に応えるよう、自信を持って自己改革や組織改革を進めて欲しい。

(岡田新一委員) ※欠席のため、書面によるご意見

- 骨子(案)については、全体的に意見が概ね取り入れられており評価する。
- 課題に対しの確に対応していくには、これまでの行政改革で取り組んだ「量」的改革の成果を踏まえつつ、「質」をより一層向上させる改革を進め、県民総参加での質の高い県民サービスの提供をめざすことが大事。
- 骨子(案)に盛り込まれている、県民参加、県民視点、自主性・自立性の高い県政運営など行革プランを確実に実行していくこと。

ま と め

(高橋和委員長)

- 骨子(案)は、今までの議論に従って、委員の意見が概ね反映されていると思う。
- 定員管理に関しては、これまでの議論を踏まえた上で、人員削減の数値目標は掲げないことになるものであり、これを妥当としたい。
- 効率化を徹底していく必要性は変わらない。量と質のバランスを考慮しながら改革を進めていくことが重要。今後4年間、行政の質に対する意識と取組みというものが極めて重要になる。
- 県と市町村との連携の基本的な方針がまだ明確に記されていないので、もう少し踏み込んで議論いただきたい。
- ワーク・ライフ・バランスについては重要なポイントになると思うので、更に一層の検討を進めて欲しい。

以上